

会誌『天文教育』について

『天文教育』編集委員長 粟野諭美

7月に香川で開催された年会で、(おそらくはじめてであろう)会誌「天文教育」セッションが開かれた。これは「天文教育」編集部の現状を多くの会員のみなさんに知ってもらうとともに、今後の編集体制や会誌そのものについて考えて欲しい、というわれわれ編集委員の希望によって設けていただいたセッションである。厳しいスケジュールの中、1時間ほどのセッション枠をいただき、参加された会員のみなさんからもいろいろな意見を聞くことができたことは、非常に有意義であった反面、編集作業の現状を理解してもらうにはまだまだ時間がかかりそうだ、ということを改めて認識する時間でもあった。

現在、編集委員は8名の会員ボランティアによって成り立ち、それぞれ分担を受け持つて編集作業をすすめているが、その作業はけして楽なものではない。隔月の発行とはいえ、常に編集スケジュールに追われ、精神的負担も大きいというのが現状である。特に会誌のレイアウト等を受け持つDTP担当者の負担は大きく、現状の作業量を続けていくことも限界が見えてきている。しかしこれは、今にはじまったことではない。編集作業（特にDTP作業）の大変さは（前任者も含め）今までずっと言われ続けてきたが、いつもその場しのぎでなんとか頑張ってしまい、結局、見直しのための議論は先延ばしになっていた。今、限界が見えているのは、当然の結果であるといつても過言ではないだろう。

今後も会誌を発行していくためには、私たち編集委員は“無理のない編集体制”が必要である、ということを痛切に感じている。現状のままでは、編集委員に大きな負担がかかるだけではなく、後継者さえ見つからないと

いう厳しい状況が続くだけである。

ここでは、春に行ったアンケート結果や「天文教育」セッションでの議論もふまえながら、今後の編集部の体制についていくつか提案したい。

1. アンケートについて

この春、会誌「天文教育」についてアンケートを行った。アンケート項目は、現在の内容やクオリティ等、会誌そのものに関するところから、今後の編集体制に関することについてである。その結果、239名から返答をいただいた。ここでは、その結果をかんたんにまとめてみたが、詳しくはこの後に掲載したアンケート結果をご参照いただきたい。

＜アンケート結果＞

- 内容にはほぼ満足している（記事や図なども見やすい）。
- 学校教育・社会教育の現状・実践報告などを知りたい。
- 具体的な天文教材の紹介などを増やして欲しい。
- 会費と編集方針については会員も意見が分かれる。（…が、やはり値上げは避けて欲しい、というのが多数か？）
- オリジナル商品には賛成が多いが、やや消極的な意見も。

今回、このようなアンケートを行ったのは、現在の編集体制に無理があることを多くの会員のみなさんに知ってもらい、今後について前向きに考えてほしい、ということが目的だった。結果として、多くの方が会誌にほぼ満足している、という意見を聞けたことはうれしく思っているものの、今後について具体的な意見がほとんどなかったのは残念である。

2. 現在の編集体制について

8人の編集委員は、原稿依頼・校閲・DTP・校正を分担している。主な仕事内容は

- 原稿依頼（全員）：メール、研究会等で依頼。
- 校閲（有本、篠原、富田、福江、栗野）：内容、誤字脱字、文章のテニオハ等のチェック、場合によっては著者にも確認。タイトル・節題や箇条書き、参考文献等を会誌のスタイルに合わせ調整する。シャープ化やトリミング、DTP処理するためのeps化等、画像の事前処理。校閲後、テキストファイルにてDTPへ。
- DTP（鈴木）：テキスト、画像をPageMakerでレイアウト（画像の事前処理も）。レイアウト後、ファイルをPDF化し校正へ。校正反映後、最終的にはPageMakerファイルで印刷業者に納入。
- 校正（仲野）：レイアウト後の原稿を最終チェック。

となっており、図1のようなスケジュールで作業をすすめている。

現在、DTPはAdobe PageMakerという編集ソフトを利用して編集を行っている。この作業には、PCのハード面、ソフト面においてある程度使いこなせることはもちろん、

DTP経験があった方が望ましい。また本ソフトではすべての工程をひとりで担当した方が作業自体は進めやすいということと、交代要員が見つからないことから、現在は鈴木氏ひとりで担当を受け持っている。

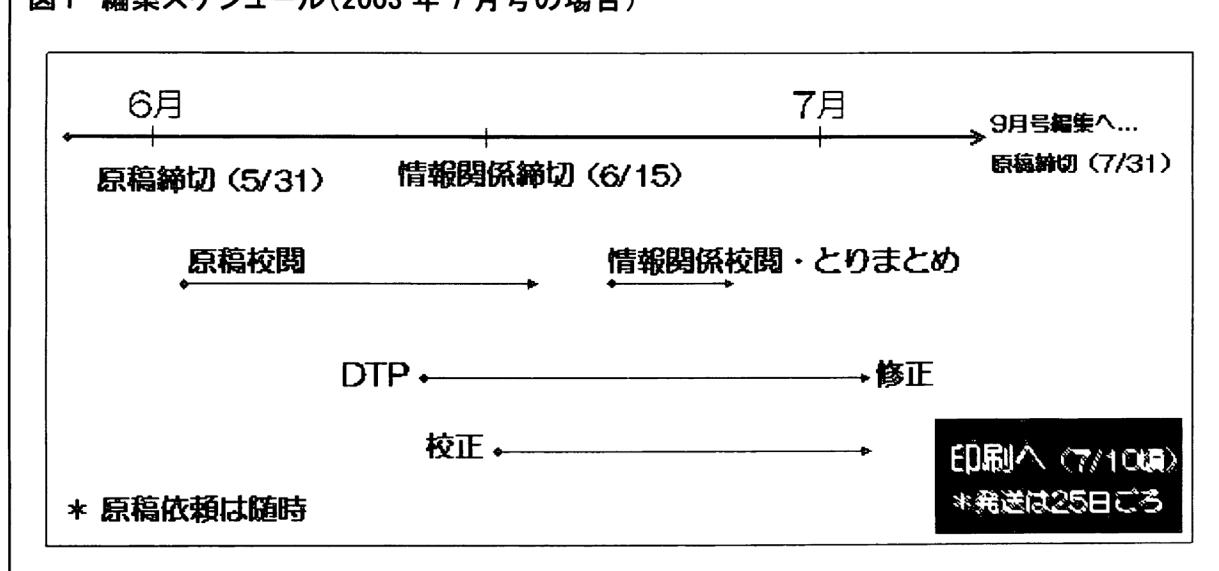
3. 編集作業の負担を減らすために…

編集委員の中でも、特にDTP担当者の負担は大きい。そこでDTP担当者の負担を軽減するために、編集部では

- ① DTP作業をすべて外注する。
- ② レイアウト作業を校閲担当者で分担し、DTP担当者は最後の取りまとめのみを行う（ただしこれにはDTPソフトの変更：PageMakerからInDesign（PDF組み込み可能ソフト）への変更が必要）。
- ③ カメラレディ（ただしフォーマット統一のためレイアウトは編集部で行う）。

の3つの方法を検討しており、年会セッションでも提案させていただいた。もちろんこれらの方法を採用するには、予算（会費の値上げ？）や会誌のクオリティ、ページ数、発行回数など、考えるべき問題がいくつかある。そのため、これから1年は、新たな体制へ移行するための準備期間として、考え得るいろいろな方法を試していきたいと考えている。

図1 編集スケジュール(2003年7月号の場合)



具体的には次に述べる。

4. セッションでの議論

セッションで挙げた編集部の報告および提案に対して、以下のような意見が挙がった。

- ① ページ数が多い。現在の半分から 60、70%でもじゅうぶんである（多数意見）。会費の値上げをしない（会員も希望していない；アンケートより）のであれば、やはりページ数を減らすしかないのでは？また（原稿や校閲等の）締め切りをすぎたものは、次号へまわすようにすれば、ページ数も多少減り、スケジュール的にも緩和されるのでは？逆に会費は安いので、もう少し値上げしてもいいという意見もあり。
- ② 編集委員が挙げた 3 案（前頁参照）を実行する前に、編集スケジュールの見直しはどうか。現在は校閲と DTP が重なる時期があるようだが、DTP に専念できるようには校閲期限をきっちり守り、すべての原稿を一度で DTP 担当者に送るようにすれば DTP 作業の負担が軽減する余地があるようにも見える。
- ③ 隔月発行を 3 ヶ月おきの季刊誌にしたらどうか？
- ④ DTP 担当者を増やし、1 回の発行ごとに交代するようにしたらどうか？この場合、DTP 担当者は編集委員ではなくアルバイトでも良いと思う。なおそれに伴う DTP 編集ソフト等の購入のための会費値上げ（1000 円程度？）は、会員にも受け入れてもらえるのでは？
- ⑤ 現状の PageMaker ではひとりの方が担当しやすい。もし分担を前提にするならば、対応したソフトの導入が必要だろう。（しかしコストも習得のための時間もかかるることは必須。）
- ⑥ 将来的には冊子をオンライン化したらど

うか。特に時期が限定している原稿は、Web での情報発信を中心にしたら、更新もしやすく、編集部の負担も減るのでは。このように多くの方からいろいろな意見をいただいたが、特に①の「ページ数が多い。無理のない範囲までページ数を減らしても、会員は不満には思わない。」という意見が多く聞かれた。確かに現状では各号 100 ページ前後の会誌となっており、数年前に比べてもページ数は大幅に増加した。それに伴い、われわれ編集委員、特に DTP 担当者の負担も増加したことは事実であろう。これは見直すべき課題のひとつであると捉え、編集部でも検討中である。

しかし、仮にページが半分になったからといって編集作業が楽になるかというと、必ずしもそうではない。例えば DTP の場合、図の事前処理・本文や図のレイアウト・タイトルや斜体の細かな文字修正・校正のアップロード・校正の修正…などのすべての作業は、DTP に慣れた担当者の場合でも、1 ページあたり平均 1 時間、面倒なもので 2 時間の作業時間が必要になってくる。これはページ総数が 50 ページの場合、単純計算でも 50 時間ほどかかるということになる。この作業を、本業の合間にボランティアで行っているのだ。ちなみにこの作業を外注した場合、1 ページあたり 3000 円前後、表組みなどが必要な場合は 4000 円前後の経費がかかる。すなわち、現在は 1 号発行するのに DTP だけで 3000 円 × 100p = 30 万円分の無料奉仕をしていることになる（ページ数が半減しても、それが相当なものだということは、ご理解いただけるだろう）。このことに関して、みなさんはどう捉えられるだろうか？（また話は少しそれるが、本会は依頼原稿に対して原稿料を支払っておらず、会員外の方のみ、5000 円の謝礼というのが現状である。しかし他の例を見ると、例えば天文学会の天文月報のみの会員（準会

員) の払う会費は 8000 円だが、会員にもきちんと原稿料が支払われることを考えると、本会の対応はちょっと考えてしまわないだろうか。)

また②④のように編集作業スケジュールの見直しや、編集委員の増員・アルバイトを導入する声もあった。委員の増員については、前向きに検討すべき課題として今まで議論されてきたが、ある程度のノウハウを持ち、かつ継続的に責任を持ってやってもらえる人材がどれだけ見つかるか(今までなかなかみつからなかつたことを考えると)疑問点も多い。またスケジュールについても、(今の比較的精力的に頑張っている編集委員でさえ)それぞれに忙しいせいや原稿の遅れなどできつちりと締め切りを守るのは難しいこともある。またスケジュールが守れたとしても DTP 自体の作業(実働時間、精神的負担ともに)が減るわけではないというのも挙げておく。

その他のご意見も含めていろいろと検討事項があり、われわれはその対応に頭を悩ませているのだが、このまま同じことを続けていても先は見えない、ということで、9月号以降は以下のような案で進めていく方針である。

- とりあえず9月号はカメラレディで準備。(ただしレイアウト等はフォーマットに従い編集部で行う。)
- 会員のみなさんにDTPを交代制ですることを提案し、担当者を募集してみる予定(夏休み中にでも Tenkyo ML にて募集の予定; メール環境が必要なため ML に参加されている方が望ましい)。ただし、もし希望する人がいなければ
 - ページ数・クオリティの大幅な低下もあるうる。
 - 会費のアップもありうる(外注する)。ということをご了解していただきたい。担当希望者が出了場合、11月号から実践することも考えている。

- ページ数は少しづつ抑える方向ですすめる。
- 上記を試してみた上で、セッションで提案した残りの 2 案(外注・PDF 化)も試してみたい。(1月号以降か?)

以上、会員のみなさんにはご不満の声もあるかもしれないが、ぜひご理解いただきたい。

5. 終わりに

ここ 1 年ほどの間で、「天文教育」のページ数は大幅に増えた。これは、編集委員の積極的な原稿依頼もさることながら、会員からの投稿原稿(特集や実践報告等)も大幅に増えたことも理由のひとつである。これはわれわれ編集委員にとって非常にありがたいとともに、「投稿したい」と思える会誌になってきたのかな? とうれしく思える成果(?)でもある。

今後、ページ数の見直し(削減)や内容の整理もしていくべきとは考えているが、(私個人としては)できるだけ多くの記事を、早く掲載していきたいと考えている。旬な記事は早く掲載するのはもちろんだが、やはりいたいたいた原稿はみな“生もの”だ。数ヶ月遅れての掲載では、“おいしく”いただけないのでないだろうか。

また編集委員がどれだけ大変か、ということも少しは知っていただけだと思う。ただ大変であると同時に、会誌を作り上げていく楽しみもあるし、それゆえ、われわれもけしてイヤイヤ続けているわけではない。ただ、今のように限られた会員に任せっきりの体制に疑問を抱きながら続けていくのはいい状態ではないし、会としても考えるべき課題ではないだろうか。今後も、今のようにボランティアで続けていくのであれば、より多くの会員が(作業面でも精神面でも)できるだけ少ない負担で編集作業を交替で受け持てる体制に早くなって欲しい、と切に願っている。